TOYOHASHI
Medical Center

National Hospital Organization
Toyohashi Medical Center

独立行政法人　国立病院機構

豊橋医療センターニュース

第32号

豊橋医療センター理念

私たちは、心のこもった医療を提供します

豊橋医療センター基本方針

- 満足していただける医療を提供し、信頼される病院をめざします
- 基本的人権を尊重し、必要な情報を提供します
- たゆまぬ研鑽に努め、すべてにおいて良質で安全な医療を提供します
- 地域と連携し、患者さんとご家族を支援します
- 安定した健全経営を維持するための努力と意識を持ち続けます

もくじ

院長挨拶 …… 1
脳神経外科紹介 …… 2
専門分野の看護師紹介 …… 3
栄養管理室だより …… 5
地域医療連携室だより …… 6
中学生職場体験学習 …… 7
事務職員の学会発表について …… 7
SOZOサンタがやってきた! …… 8
外来診療担当医表 …… 裏表紙

発行責任者：恵美 宣彦
発　行　所：独立行政法人　国立病院機構　豊橋医療センター
住　　所：〒440-8510　愛知県豊橋市飯村町字浜道上 50
発　行　日：令和２年１月
ホームページアドレス：https://toyohashi.hosp.go.jp/

2020新年のご挨拶

院長
恵　美　宣　彦

あけましておめでとうございます。
新しい年を新たな気持ちで向かえていきたいと思います。

私たち、豊橋医療センターは、医師、看護師、検査技師、放射線技師、薬剤師、栄養管理士、リハビリ技師、専門事務員、医事受付員など多くのスタッフで成り立っています。それぞれが業務のプロとして、互いに助け合って、良い医療を提供していきたいと思っています。

近年、地域の病院を統合して、２次医療圏の病床数を減らしていくという流れがあります。私はこの豊橋医療センターは地域にとって必要な病院であり、この地域で生活している方々が安心して生活を行える大事なインフラであると確信しています。昨年も2000台を超える救急車を受け入れて近隣地区の医療を支えています。

当院の理念は、「心のこもった医療を提供する」ことです。それには地域のニーズを吸い上げるために、定期的に地域の方に医療情報を提供する健康フェスタなどのイベントを開催していきたいと思います。

ポリファーマシーという言葉をご存知でしょうか。最近テレビやニュース等で紹介され話題となっていますが、医療の問題としても重要なことだと思います。患者さんがたくさんの種類のお薬を服薬することを言います。体に入ったお薬は、身体中をめぐっていますので、お薬同士の相互作用が働いて思わぬ副作用を起こしたりすることが報告されています。また、患者さんも残薬の管理が大変になりますし、間違えた飲み方をしてしまうこともあります。もちろん患者さんの病態、臓器機能にもよりますので、それぞれのケースごとに検討が必要です。当院ではそのような観点からもお薬の量を管理していきたいと思っています。

医療には、まだまだ改善の余地はあると思います。この一年みなさんとともにさらに良い医療を提供していけるよう努力していきたいと思っています。

豊橋医療センター
脳卒中センターについて

脳卒中センター長 臨床研究部長
酒　井　秀　樹

脳神経外科の酒井です。当院の脳神経外科は2000年に（旧）豊橋東病院に開設されて以来、おかげさまで20年を迎えることができました。今回は、あらたに「脳卒中センター」を開設いたしましたので紹介させていただきます。

脳神経外科診療をとりまく近年の大きな変化は、急速な脳卒中治療法の進歩です。脳卒中には出血性脳卒中（脳出血、くも膜下出血）と虚血性脳卒中（脳梗塞）がありますが、脳卒中の70％は脳梗塞です。2004年までは、脳梗塞の治療といってもリハビリと再発予防の薬しかなかったのですが、2005年に血管に詰まった血栓を溶かすアルテプラーゼ（tPA）という薬が承認されました。これにより、発症直後の脳梗塞に対して血栓を溶かす画期的な「血栓溶解療法」ができるようになりました。さらに、2010年には薬でも溶けないような血栓を細い管（カテーテル）により除去する「血栓回収療法」ができるようになりました。これらの治療技術の進歩により、脳梗塞治療の成績は飛躍的に向上しましたが、これら新しい治療法は発症早期の限られた時間しかできないため、病院としては24時間/365日いつでも患者さんを受け入れができる体制の整備が必要となりました。このため、基幹病院に「脳卒中センター」設置を奨励するなど、日本脳卒中学会の主導で診療体制の整備がすすめられてきました。さらに、2018年12月には「脳卒中・循環器病対策基本法」が国会で可決され、国としても脳卒中診療の整備、人材育成、研究などを推進する体制がつくられました。

当科では、年間約300例の脳卒中（脳梗塞：約200例、脳出血：約70例、くも膜下出血：約30例）の患者さんを治療しています。これは脳神経外科入院患者数の約半数を占めており、当科でもっとも力を注いで診療している分野です。前述の時流を踏まえ、当院では2019年７月に「脳卒中センター」を開設いたしました。新規の設備整備などはありませんが、東３階病棟とICUに脳卒中専門病床（脳卒中ユニット）を設定しました。また、医療レベルをより向上させるため、医師のみならず看護師、リハビリスタッフ、薬剤師などによるチームで脳卒中診療を行う脳卒中チーム（ストロークチーム）も組織し、定期的なチーム回診や症例検討会も行っています。現在、同センターでは年間約30例の血栓溶解療法、約20例の血栓回収療法をおこなっており、2019年９月に日本脳卒中学会により「一次脳卒中センター」に認定されました。

高齢者が「寝たきり」になる原因で最も多いのは脳卒中といわれています。社会の高齢化が進むにつれ、脳卒中医療の役割はますます重要になってくると思われます。ひとりでも寝たきりになる患者さんが減るように、豊橋医療センター脳卒中センターは活動していく所存です。

当院の専門分野を持つ看護師の紹介

今回は当院で活動している専門分野を持つ看護師（専門看護師・認定看護師・治験コーディネーター）についてご紹介いたします。

専門看護師・認定看護師は、日本看護協会の所定の審査に合格し、院内での活動と自己研鑽の実績を積み、５年ごとの資格更新をしています。専門看護師は13分野2279名、認定看護師は21分野19894名が全国の病院・クリニック・施設・訪問看護ステーションなどで活躍しています（2018年12月現在）

専門看護師は、患者さん・ご家族に起きている問題を総合的に捉えて判断する力と広い視野を持って、専門分野の専門性を発揮しながら専門看護師の６つの役割「実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究」を果たし、院内全体や地域の看護の質の向上に努めます。

認定看護師は、患者さん・ご家族によりよい看護を提供できるよう、認定看護分野ごとの専門性を発揮しながら認定看護師の３つの役割「実践・指導・相談」を果たして、看護の質の向上に努めています。

治験コーディネーターは、治験（新薬が実際の薬として使用されるために必要な臨床研究）を行う際に、医療機関・患者さん・製薬会社の間に立ち、スムーズに治験が進行するように調整をする役割です。国立病院機構の所定の専門研修を修了し、看護師の専門性を活かして患者さんと直に接し、治験内容の説明・不安や心的負担を軽減するための相談相手として、患者さんをサポートしています。

＜がん看護専門看護師
牧野佐知子（まきのさちこ）＞

がん看護専門看護師は、がんの療養生活における患者さんとご家族の揺れる気持ちに寄り添い、患者さんが安心して自分らしい生活を過ごすことができるよう支援します。がんの種類や手術、抗がん剤、放射線など治療内容を問わず、診断時～治療中～緩和ケアに至るまで対応しています。主に、告知を受けられた後の衝撃、治療や療養方法の選択、医師に自分の気がかりをどう伝えるか、副作用への対処、術後リンパ浮腫のケア、緩和ケア等に関するご相談をお受けしています。がん看護の質向上と円滑ながんチーム医療の実践に向けて、がん患者さんのケアを最前線で担うスタッフと協働しながら日々奮闘しています。

＜皮膚・排泄ケア認定看護師（特定行為研修修了）
池戸美奈（いけどみな）＞

褥瘡（床ずれ）対策、ストーマケア、がん創傷のスキンケアなどを担当しています。褥瘡対策チームや褥瘡回診チーム、栄養サポートチームとともに多職種で協働して褥瘡予防・治療ケアを推進しています。院内全体が活動の場であり、患者さんやご家族からの相談・ケア実践だけでなく、医師・看護師からの相談にも対応します。また、「看護専門外来（ストーマ・スキンケア）」を通してデイサービスや訪問看護と連携し、ストーマや褥瘡があっても安心して地域で生活できるよう支援しています。2018年に特定行為研修を修了し、安全で安楽な創傷ケアが提供できるよう研鑽を続けています。

ライフスタイルにも配慮し、患者さんやご家族と共に取り組む創傷ケアを目指しています。

＜感染管理認定看護師
塩澤佳須子（しおざわかずこ）＞

感染管理認定看護師の役割は、入院中や外来受診される患者さんが他の人の持っている感染症に罹ることがないようにすることです。

インフルエンザや抗菌薬が効きにくい病原体等による院内感染を、起こさない・広げないためには、院内で働く全ての職員が感染対策についての正しい知識を持つことが必要です。そのために医師・薬剤師・検査技師と共に感染対策チームとして、院内を巡回し清潔な療養環境が保たれているか、患者さん毎の手洗いを実施しているかなど感染対策の評価や職員教育を行うなど様々な活動を行っています。

＜緩和ケア認定看護師
青木尚子（あおきなおこ）＞

緩和ケアは、がんと診断された時から、抗がん剤などの治療中であっても、その時々の苦痛に対して提供される大切ながん治療の一つです。

私は現在、火曜日の緩和ケア外来で初めて緩和ケアを受診される患者さん・ご家族に対し、緩和ケアとはどのようなものかがわかり、安心してケアが受けられるよう不安、心配への対応をおこなっています。

また、緩和ケア病棟に所属し、緩和ケア認定看護師として、医師や薬剤師、栄養士や臨床心理士など多職種と連携を図り、他の看護師と共に患者さんやそのご家族が抱える体や心のつらさを和らげ、病気と共にその人らしく生きる事ができるように支援しています。

＜脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
鱧永洋亮（はもながようすけ）＞

脳卒中の重症化を予防するために、看護の視点で早期からリハビリテーションを開始し、後遺症が最小限となるよう患者さんとご家族に関わっています。脳卒中患者さんの思いを聞き、その人らしく生活できるよう医師や薬剤師、リハビリ職種、ソーシャルワーカーなどの多職種と協力してサポートしています。また所属病棟では、検査結果を紐解き、画像データから症状を予測しケアにつなげる勉強会を開き、脳卒中看護を実践するスタッフの相談・支援も行っています。さらに、市民講座などで脳卒中の発症予防・再発予防のための生活、早期発見・早期受診についての講演も行っています。

脳卒中についてのご相談は、僕にお任せください‼

＜治験コーディネーター（CRC）
陶山佳代（すやまかよ）＞

治験とは、製薬会社が開発した「薬の候補」を健康な成人や患者さんに使用してもらい、効果があるか、安全に使用できるか、また適正な薬の量や投与方法などを確認する目的で行われる試験のことを言います。治験に参加すると定期的に受診をし、必要な検査を受けてもらう必要があるため、私たち治験コーディネーターは検査に同伴したり診察にも立ち合います。「患者さんの人権・安全を保証する」こと、「患者さんが納得し安心して治験に参加できる」ことが私の大きな役割です。治験は未来への贈り物！そんな気持ちで患者さんと接しています。治験について気になることや興味がありましたら、お気軽に声をかけてくださいね！

栄養管理室だより　ー腸内フローラについて知ろうー

管理栄養士　今井　茉裕

最近よく耳にする腸内フローラ。みなさんは何のことかご存知でしょうか。フローラとは「お花畑」のことで、腸内フローラを直訳すると「腸内のお花畑」となります。腸内にすんでいる様々な腸内細菌を染色すると色とりどりに染まり、まるでお花畑に見えることからそう名付けられました。腸内フローラは個人差が非常に大きく、自分と隣の人はもちろん、家族でさえも異なります。また、人の腸内フローラは離乳を終えたころにパターンが決まりますが、食事や加齢、生活環境、病気、薬などの影響で変化すると言われています。

さらに腸内フローラは様々な疾患に関与していることが最近の研究で明らかになり、特に腸と脳はお互いに影響を及ぼしあう関係にあると考えられています。例えば「ストレスを感じるとおなかが痛くなる」や「腸内の善玉菌が少ないとうつ病に罹るリスクが上昇する」、「消化管ホルモンが食欲を促す」というように、脳から腸、腸から脳へと影響を与えあっているのです。そのため、腸内フローラの改善に注目が集まっています。

では、腸内フローラを改善するにはどうしたらよいのでしょうか。重要な言葉として、「プロバイオティクス」と「プレバイオティクス」があります。プロバイオティクスは乳酸菌のような善玉菌のことを、プレバイオティクスはその善玉菌のエサとなる食物繊維やオリゴ糖などをさし、この二つを普段の食事に取り入れることによって、腸内フローラを改善できると言われています。

プロバイオティクスは、ヨーグルトやチーズ、味噌、納豆などの発酵食品に多く含まれます。その中でもヨーグルトは、多くの食品メーカーから様々な菌を含む商品が発売されており、その数は十数種類にのぼります。これだけ色々あると「どれを食べればいいの？」と迷われることでしょう。「これ！」という答えがあればいいのですが、最初に述べたように腸内フローラは個人差が大きいため、どのヨーグルトがあなたの腸にいい影響をもたらすのかは、残念ながらわかりません。そのため、自分の腸に合うヨーグルトを探すことが必要となります。まず、好きなヨーグルトを一つ決め、小カップ一つ分程度の量（約80ｇ）を、毎日２週間以上食べ続けましょう。それで便通や体調の改善を感じることができたら「腸に合っている」と判断します。何も変わらなければ、別の種類を試してみましょう。

プレバイオティクスにあたるオリゴ糖や食物繊維は野菜に多く含まれており、代表的なのはごぼうやたまねぎ、レタス、春菊などです。また、食物繊維は腸内フローラを整えるのに役立つというほかにも、脂肪やコレステロールの吸収抑制効果や血糖値の上昇を緩やかにする働きもあるので、積極的に摂れるよう心がけましょう。

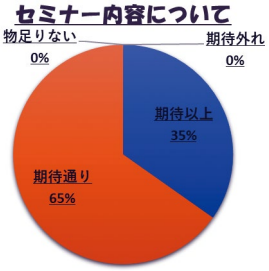
腸内フローラについて、少し理解が深まったでしょうか。規則正しい生活習慣、食事バランスを整えることがまず大切ですが、是非、腸内フローラを整えてくれるヨーグルトや野菜も日々の生活に取り入れてみてください。

豊橋医療センター

地域医療連携室だより

2019年度　地域医療連携室主催セミナー　開催報告

テーマ『緩和ケア』



令和元年１０月１０日（木）13時～15時、
豊橋市内の介護・医療機関関係者（看護師・居宅介護支援専門員
社会福祉士・相談員）を対象とした地域医療連携室主催セミナーを
開催しました。参加者４９名（地域包括支援センター：９名、
居宅介護支援事業所：２６名、訪問看護ステーション：６名、
病院相談員：５名、施設相談員３名）でした。

今回のテーマである『緩和ケア』は、３年ぶり、４回目の開催です。緩和ケア認定看護師、心理療法士に講師を依頼し、『緩和ケアの実際』、『心理療法士による患者・家族への関わり』について講演、ＭＳＷからは『緩和ケアの概要と申し込み方法』について説明を行いました。その後は、参加者により緩和ケアを身近に感じていただくことを目的に、緩和ケア病棟見学、交流会を行いました。

参加者から回収したアンケートでは、セミナー内容について、上記グラフのように参加者全員から期待以上、期待通りとお声をいただきました。

青木緩和ケア認定看護師の講演の様子。
事例を通し緩和ケアのことについて知識、理解が深まったという意見をいただきました。

梁心理療法士の講演の様子。
傾聴の大切さを改めて知った、仕事をする上で自分の気持ちも楽になったという意見をいただきました。

交流会の様子。スタッフに直接話ができてよかったという意見をいただきました。

「中学生職場体験学習」を受け入れて

庶務班長　小林　昌美

中学校では、キャリア教育の一環として、様々な職業の実際の活動を経験し、働く意義や仕事に対する責任の重さについて学び、将来の方向性を見出す活動として職場体験が行われています。当院では、11月・12月に豊橋市内の中学２年生を７名受け入れました。将来、医師、薬剤師、看護師になりたいという希望を持った中学生が職場体験に来てくれました。

外来診察室・薬剤部・放射線科・検査科・リハビリ・栄養・病棟・手術室・救急外来等々をそれぞれの希望職種をメインに３～４日間、見学と少しの体験をして頂きました。

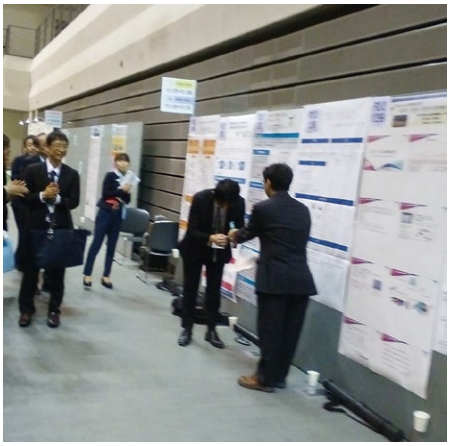
中学生の感想として、「病院は医師と看護師だけじゃないんだ。多くの職種の方がいるんだ」とか、「とても忙しく、大変な仕事だと思っていたが、働く職員さんたちは、緊張感の中でも楽しそうに仕事をしていました。仕事をするなら、楽しく好きな仕事をしたい。」「チーム医療の大切さを学んだ」「将来は豊橋医療センターの薬剤師になりたい」等々の感想を言っていました。今回の体験によって、テレビなどで見ていた病院内の仕事を身近に感じ、興味を持ってもらえたことは良かったと思います。

将来、体験に来た生徒さんと働ける日が来ることを期待したいと思います。

＜事務職員の学会発表について＞

庶務係長　若山　豊範

医療をとりまく状況は、年々複雑になってきており、それに伴い病院職員の日々の業務も複雑になってきています。このことは患者さんの診療に直接携わらない事務職員についても、いえることであり、日々の業務から少し距離をおいて、自身の業務ひいては自分自身の在り方を見つめ直す機会は必要です。学会発表というのはその機会としてふさわしい場所です。今回、１１月に行われた第７３回国立病院総合医学会では当院事務部の福島財務管理係長が「医業未収金削減に向けた取組について」と題して発表を行い、取組内容を評価され、ベストポスター賞を受賞しました。今後も事務部は積極的に業務改善・課題解決に取り組み、学会発表という機会で振り返り、次に生かすということをしていきたいと思います。



ＳＯＺＯサンタが豊橋医療センターにやってきた！

副看護部長　北　村　　忍

師走に入った１２月２０日（金）豊橋創造大学の看護学生１９名がクリスマスソングとクリスマスカードを届けにやってきました。

サンタとトナカイの衣装を着た可愛い看護学生がハンドベルとトーンチャイムを使って「あわてんぼうのサンタクロース」「ジングルベル」「きよしこの夜」「星に願いを」「上を向いて歩こう」「パプリカ」を奏で、エントランスホールに集まった患者さん、ご家族と共に歌い、踊りました。普段なら上がらない手も学生たちの誘いで大きく上がり、私たちもびっくりしました。病院入り口のクリスマスの飾りと相まって一足早く来たクリスマス。患者さんから笑顔がこぼれます。

看護学生は手書きのメッセージが入ったクリスマスカードを各病棟に行き手渡しました。あなたたちの想いがきっと患者さん、ご家族に手話や合唱とともに伝わっていることでしょう。病院でクリスマスを迎えた患者さん、ご家族の方々にとって、素敵なクリスマスになったことと思います。豊橋創造大学保健医療学部看護学科の学生さん、ありがとうございました。

独立行政法人
国立病院機構豊橋医療センター

外　来　診　療　担　当　医　表

令和２年２月1日～

※受付時間は、８：30～11：00　（再診予約専用電話　0532−62−1087　平日13:00～15:00）　電　話：0532－62－0301

曜　日			月		火		水		木		金	
診療科	診察室		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内　科	⑩	第1	膠原病リウマチ内科 横井		一般内科 豊住		一般内科 豊住		一般内科 豊住		膠原病リウマチ内科 横井	
	⑩	第2	腎臓 鳥山		一般内科 北澤		膠原病リウマチ内科 横井		腎臓 鳥山		一般内科・血液内科 恵美	
	⑩	第3	一般内科・血液内科 恵美		代謝・内分泌 武内		第3水曜 濱田	総合内科				14:00-15:00 肺炎球菌予防接種 （要予約）
							第1、5水曜 鈴木道	膠原病				
脳神経外科	⑭		初診、予約外 酒井秀		西村		初診のみ 交代制		酒井秀		初診、予約外 山内	
	⑮		山内		初診、予約外 熊谷				初診、予約外 熊谷		板津	
神経内科	⑮											
循環器科	⑯	第1	柴田直		岡田		横家	第1・2・5週 横家	岡田		横家	
	⑯	第2					柴田理				細羽	
	⑯	ペースメーカー						第3・4週 横家				
心臓血管外科	㉑		第1・3・5月曜　10:00開始 鷲山									
			第2・4月曜　10:00開始 高橋									
整形外科	⑰	第1	土井		初診、病診連携 福島		安間		初診、病診連携 安間		土井	
	⑱	第2	病診連携 柴田康		予約制 柴田康		初診、病診連携 奥村				奥村	
	⑱	第3	初診 手の外来 上用		脊椎外来 藤田和		福島	第1、3、5水曜 リウマチ外来 三井	脊椎外来 藤田和		初診 八木	
	⑯	第4	第4月曜　腫瘍 相羽									
眼　科	⑲		10:00開始・予約のみ 鈴木啓		鈴木啓	検査のみ 鈴木啓			清水	検査のみ 清水		
耳鼻咽喉科	⑳	1	畔柳		畔柳		畔柳		畔柳		畔柳	
		2	山口		山口		山口		山口		山口	
歯科口腔外科（予約のみ）	㉒		湯浅		湯浅		湯浅		湯浅		湯浅	
精神科	㉓		鵜生				鵜生		杉浦		（心療内科） 鵜生	
外　科	㉔	第1	伊藤武		一般／禁煙 市原	緩和ケア 佐藤	佐藤		山下		佐藤	
	㉔	第2	大本		稲岡		伊藤武		青木		安藤	
	㉚	第3									乳腺外来 後藤	
消化器科	㉕		交代制		藤田基						藤田基	
呼吸器外科	㉖											
呼吸器科	㉗								鈴木淳			
産婦人科	㉘		杉原		杉原		曽根原		杉原		杉原	
泌尿器科	㉙				全並						住友	
皮膚科（現在は予約のみ）	㉚		予約のみ 羽根						予約のみ 滝			
小児科	㉛	第1	西田	慢性疾患のみ 鈴木清	鈴木清		西田	慢性疾患のみ 西田	鈴木清	慢性疾患のみ 西田	西田	慢性疾患のみ 鈴木清
	㉛			13:30-14:30 予防接種 （要予約）		13:30-14:30 乳児検診 （要予約）						
放射線科	㊿						放射線治療 飯田公					